

自然の中において

総務部

鬼原 和美

KIHARA KAZUMI

コロナ禍で今年の夏もお楽しみがお預けとなってしまいましたが、「夏の思い出」として真っ先に浮かんでくるのは子供の頃、母の実家で過ごした日々のことです。

母の実家は新潟県信濃川の上流付近にあり、夏に行くと決まって従姉達と川で水遊びをしたものです。

東京都内で生まれ育った私にとって、川で遊ぶことは日常ではできない特別なことであり、子供ながらも、その清らかな水に感動し大はしゃぎしていました。

川までの道中では甘酸っぱい野イチゴを摘んで食べたり、「オナモミ」という雑草の実を投げあったり、この実は表面がトゲトゲになっていて服にくっ

つくのが面白かったのです。

今思えばこれらの体験から、いつの間にか自然の中で過ごすことの楽しさ、心地良さを学んだのだと思います。

大人になった今も自然を求め、時折山へ行きます。

青空の下、山の稜線を歩きながら見渡す風景は、あまりの美しさに畏怖すら感じてしまうほどです。

自分の脚でしか辿り着けない、この天空の地に身を置くと、自然の偉大さ、尊さを痛感すると同時に、今この地球上で起こっている気候変動から守るために、まずは身近なことからこつこつとやらなければ、と改めて思います。

編集後記

本号の「事業報告」では、講習会・研修会等の開催状況についてご報告しています。マネジメント研修会の参加者アンケート結果では、経験年数に関わらず多様な方に受講いただき、研修内容も分かりやすいとのご回答が95%となっております。今後も満足度の高い研修会等を実施してまいります。

「コラム」では、廃棄物処理における低炭素化や再資源化促進（グリーン化）の観点での企業の取り組み、処理業界の従来への枠組みを超えた対策の必要性、時代要請に合わせた規制の適応など、多角的視点で考察されています。

「連載講義」では、本年9月に策定された「循環経済工程表

について解説いただくと共に、参考となるデンマークにおける循環政策イニシアティブやアクションプランの状況及び具体策について解説されています。

「産廃鼎談」の第3回のゲストは、東海大学副学長の細田教授をお迎えし、経済の視点から廃棄物処理、資源循環の変遷、処理業界の成長戦略など様々な角度からお話ししていただきました。

ご多忙の中、記事をお寄せいただいた執筆者の皆様、編集にご協力いただいた皆様、本誌を読んでくださった読者の皆様に心から感謝申し上げます。（広報室）

■本誌に関する連絡先：総務部広報室（e-mail：jigyo@jwnet.or.jp）

〈アンケートへのご協力のお願い〉

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ（以下のURL）に掲載しています。本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JW センター情報（季刊）VOL.22 NO.3 発行日：2022年10月17日発行 発行人：関 荘一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒102-0084 東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア7階
TEL：03-5275-7111 FAX：03-5275-7112 <https://www.jwnet.or.jp/>
デザイン・印刷：大日本法令印刷株式会社